

平成 28 年度第 1 回  
都市町村協議会議事速記録

平成 28 年 11 月 11 日（金）  
於・都庁第一本庁舎 7 階大会議室

## 平成 28 年度第 1 回都市町村協議会議事速記録

平成 28 年 11 月 11 日（金）

1 7 時 2 分 ～ 1 8 時 7 分

於・都庁第一本庁舎 7 階大会議室

### 〔開 会〕

#### ○事務局長（西村行政部長）

ただいまから平成 28 年度第 1 回都市町村協議会を開催いたします。

出席者のご紹介は、お手元に配付いたしました座席表でかえさせていただきます。

では、議事に先立ちまして、本協議会会長の小池知事からご挨拶をいただきます。

### 〔挨 拶〕

#### ○会長（小池知事）

皆様、こんにちは。就任から 100 日を超えました。都知事・小池百合子でございます。

本日は、都市町村協議会にご参加いただきましてありがとうございます。また、日ごろより皆様方には都政運営に大変ご協力いただいておりますこと、改めて御礼を申し上げます。

先日は、オリンピック・パラリンピックのフラッグツアールで、小笠原村そして奥多摩町にお伺いをしたところでございます。そして、明日 12 日（土曜日）は御蔵島村に伺わせていただきます。そして、三宅村でのフラッグツアールということで、エンデューロレース、私は乗りませんが、こちらの式典に参加する予定となっております。お天気もどうやらよくなりそうなので、明日は大変楽しみにしておりますので、村長、よろしく願いいたします。

ということで、多摩・島しょ地域には選挙期間中からも何度も足を運ばせていただいたところでございますが、ぜひともこれからも足しげく現場の皆様方のところに伺わせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックまでは、もうカウントダウンを始めてもい

いぐらい迫ってきているわけでございます。このフラッグツアーは、地元の皆様方と直接触れ合って、それからオリンピック・パラリンピックの選手にご同行いただくことも多うございます。既に奥多摩町での会も大変盛り上がり、町民の方が全て来られていたのではないかと思うぐらい、大変にぎやかな会になったと思います。これから 2020 年に向かって、都内各地でわくわく感を感じていただけるように、ずっと右肩上がりに、尻上がりによくなるような、そんな流れをつくっていきたいと思っておりますので、皆様方にはご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

東京の人口の3分の1、面積では3分の2を占めますのが多摩・島しょ地域でございますので、その発展は東京の発展に何よりも欠かせない要素だと理解をしております。

多摩地域からも市長を初めとする多くの皆様方に本日おいでいただいておりますけれども、今日も、多摩格差というのをこれからどうするんですかというふうに記者会見で聞かれました。ぜひ、この多摩格差という言葉そのものがなくなるぐらいの発展を遂げていただけるような、そういうお手伝いをさせていただきたいと思っておりますので、ぜひそこに磨きをかけていきたい。

そしてまた、島しょ地域においては、世界自然遺産に登録されました小笠原諸島を初めとして大変すばらしい景観、そして豊かな海洋資源ということで、魅力がいっぱいであることは言うまでもございません。ぜひ、1つ1つの特徴といたしましうか、特性を生かして、そして磨きがかかって、そして皆様とともに東京都として連携しながら、さらにこの宝物を皆さんとともに価値を高めていきたいと考えております。

そして、多摩産材、国に特区の実現を提案中の島焼酎、多摩・島しょ地域にはこのような宝物がたくさんあるわけでございますので、ぜひその宝物磨き、宝物探しをこれからも続けてまいりたいと思っております。

また、一方で、防災、治安対策、環境対策といった生活に密着した大きな課題もございますので、日々の課題に向き合って直接住民の皆様方に近いところでご尽力をされておられる皆様方としっかりと連携をさせていただきたいと思っております。

冒頭から長くなってはいけませんので、まずは皆様方に歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞ最後までよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○事務局長（西村行政部長）

続きまして、市長会を代表して、会長の羽村市長・並木委員からご挨拶をいただきます。

○並木委員（市長会会長・羽村市長）

皆様、こんばんは。ただいま小池知事からお話をありがとうございました。100日たったということで、精力的にご活躍をなさっている姿を拝見しておりまして、敬意を表させていただきますと存じます。

羽村市長の並木でございます。市長会を代表して一言ご挨拶を申し上げさせていただきますと存じます。

今日は、この協議会が昨年とはまた違った形で、こういう立場で直接お話を聞かせていただける、首長全員の参加をいただける体制にさせていただいたことに、まず御礼を申し上げます。そして、東京都の皆様方に、日ごろから多摩地域の振興、そして各市の行財政運営に対しまして格別なるお力添えをいただいておりますことに対して、まず心から御礼を申し上げますと存じます。

多摩地域は、これまでも東京都と緊密な連携のもとにさまざまな行政サービスの向上に取り組んできたところでございます。しかしながら、区部に比べて遅れている公共交通インフラや幹線道路の整備のほか、高度成長期に集中的に整備した都市インフラの更新、そして大規模団地の再生、大規模事業所の撤退等、多摩地域独自の課題への対応が求められているところでございます。さらに、マイナンバー制度の運用など、国における新たな施策の実施により、各市の行政需要は増加する一方でございます。この後、ご説明をさせていただきます平成29年度予算編成に対する要望は、どれひとつとりましても多摩地域の発展のために必要なものばかりでございます。これまで以上に都の積極的な取り組みをお願い申し上げるところでございます。

さて、本日の意見交換では「今後の多摩・島しょ地域の振興について」がテーマとなっております。多摩地域を取り巻く社会情勢が大きく変化しており、先ほども申し上げましたけれども、さまざまな課題が顕在化しております。しかしながら、他方、多摩地域には、先ほど知事からお話がありましたけれども、先端技術産業や大学・研究機関などが集約されていることや、豊かな自然環境が残っているということで、他にはないポテンシャルを持っているところでございます。これからの多摩振興をいかに進めていくかを考えるに当たっては、こうした多摩の特色なども十分踏まえていただき、知事を初め東京都の幹部の皆様と忌憚のない意見交換をさせていただきたいと思っております。

本協議会が実りあるものになりますことをお願い申し上げまして、簡単でありますけれ

ども、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局長（西村行政部長）

続きまして、町村会を代表して、会長の奥多摩町長・河村委員からご挨拶をいただきます。

○河村委員（町村会会長・奥多摩町長）

皆さん、こんにちは、東京都町村会会長、奥多摩町長の河村でございます。小池知事には、フラッグツアーではほとんどの町民が出て楽しくやらせていただき、また、直接住民と接していただき、住民が感激をし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての気運醸成ができたのではないかと考えております。特に、後ほど平成29年度東京都予算編成の要望にもありますけれども、島しょ地域での競技開催、あるいは東京オリンピック・パラリンピックの聖火が13の町村に回ってほしいという要望も入っております。そういう中で、日ごろから小池知事を初め東京都の皆様方には、13の町村に対して絶大なご支援をいただき、行財政運営がスムーズに進んでいるということに対しまして、まず冒頭で感謝を申し上げたいと思います。

特に、本年は、4月、8月、10月に全国的にいろんなところで災害が起きました。特に13の町村においては、この災害という問題、防災・減災をどうしていくかというのが一番大きな課題でございます。特に西多摩地域の4町村については、森林を多く抱えて急峻な山があり、国土の保全という大きな目的を持っておりますけれども、片方では、地域に住む住民が安全で安心して住むためにどうしていったらいいかという問題を抱えております。

これは9つの島しょの町村も同じでございます。直下型地震の津波の想定も出たように、島しょではこれから大災害に対する備えを東京都の皆様方のご支援によりやっけていけない状況でございます。もちろん、国家的な要素、排他的経済水域の問題も含めて担っておりますので、この島しょ地域の住民の皆様が安全で安心して住める環境を、これからもご支援をいただきながらつくっていく努力をそれぞれの町村はしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

特に、13の町村で、今一番住民の皆さんが問題なのは、少子高齢化によって、まだ人口減少の歯どめがかかっておりません。我が町で言いますと、65歳以上の高齢化率が48.5%であります。後ほど要望の中でも自身の取り組みをお話しさせていただきますけれども、そういう違った問題を抱えているのが13の町村の実情でございます。行財政が非常に脆弱でありますので、今後とも小池知事には、こういう13町村の行財政問題については十

分にご理解をいただきながら、東京都の中でもそういうところできちっと生活をし、住民の水道水源を守り、また、国家的な水域を守っているということに気概を持って生きておりますので、そういう点についてもご配慮を賜ればありがたいと思います。

今後とも、小さい 13 町村でありますけれども、住民が安全で安心して住むためには、行財政が非常に脆弱でございますので、重ねて申し上げますけれども、知事にはそういう観点から現場を見ていただきながらご支援を賜ればありがたいと思っております。

冒頭でご挨拶をさせていただき、今後の協議会において、後ほど市町村の平成 29 年度予算に対する要望も話させていただきますので、よろしく願い申し上げます。今日は大変ありがとうございます。

## 〔議 事〕

### ○事務局長（西村行政部長）

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

議事の進行役は、副知事の中西委員にお願いしたいと存じます。

中西委員、お願いいたします。

### ○中西委員（副知事）

それでは、以降は私が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

本日の議題は 2 件でございます。お手元に議案書があらうかと思いますが、2 ページにございます議案第 1 号「平成 29 年度東京都予算編成に対する市町村要望について」を議題といたします。

まず、市側の要望につきまして、市長会会長の並木委員から説明をお願いいたします。

### ○並木委員（市長会会長・羽村市長）

それでは、平成 29 年度東京都予算編成に対する市長会要望についてご説明をさせていただきます。

最重点要望事項は、大きく分けて 3 点でございます。

まず、29 年度の都の予算編成に当たって、市長会の基本的な考え方といたしましては、多摩地域の振興をより実効性のあるものとするため、積極的な施策の推進と財政的な措置をお願いしております。特に、「市町村総合交付金」につきましては、市財政にとって重要な財政補完制度であります。つきましては、市町村共通の思いとして、当面の目標とす

る交付金総額 500 億円への増額につきまして特段のご配慮をお願いいたします。

次に、防災事業の充実と、これに関する財政措置の確立でございます。小中学校等の公共施設は、災害発生時に避難所や支援物資の保管等を行う重要な施設でございます。公共施設の改築や改修を含め、耐震化工事等に対して財政支援をお願いいたします。また、全国各地で記録的な豪雨が頻発し、河川の氾濫や土砂災害が多発しております。私どもといたしましても、いつ発生するかわからない災害に備えて、避難場所や避難体制や情報伝達体制の充実など、対応に努めているところでありますけれども、都の支援の強化を引き続きお願い申し上げます。

最後に、オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた支援についてでございます。2020 年の東京大会を契機として多摩地域の活性化が図られますよう、産業、観光、文化、教育等、さまざまな分野の取り組みに対する支援をお願いしたいと存じます。

詳しい要望事項は、3 ページから成る「平成 29 年度東京都予算編成にかかる最重点要望事項」と、冊子の重点要望事項に記載しております。どれも切実な要望でございますので、後ほどご覧いただきたいと存じます。

簡単でありますけれども、説明は以上であります。よろしくお願いを申し上げます。

○中西委員（副知事）

次に、町村側の要望につきまして、町村会会長の河村委員から説明をお願いいたします。

○河村委員（町村会会長・奥多摩町長）

それでは、13 の町村会からそれぞれ要望をまとめまして、最終的には重点要望、あるいは細かい項目につきましては冊子で後ほどご覧いただければありがたいと思います。ここでは、町村会から 7 項目につきまして最重点要望についてご説明させていただきたいと思っております。

1 点目でございます。市長会と同様に、「市町村総合交付金」につきましては、それぞれの町村が、このような交付金によりまして自分のところのいろんな特徴的な事業や施策が進められるということでございますので、従来から強力にお願いをしてまいりました。どうか平成 29 年度には、我々の悲願であります 500 億円を予算化していただければ大変ありがたいと思っておりますので、ご配慮をお願い申し上げます。

2 点目は小笠原空港の開設でございます。これは復帰以来の村民の悲願でありまして、空港整備に係る計画案を早期に検討していただいて、小笠原諸島が日本復帰 50 周年を平成 30 年 6 月に迎えますので、東京都では今までも努力をしておられますけれども、それ

までに一定の見解を出していただければありがたいということでございます。

3点目の地方創生の推進につきましては、それぞれの町村が平成 28 年度から地方版の総合戦略により、本格的に取り組む予定でございます。したがって、それに対する必要な財政支援をお願いするものでございます。

4点目でございます。冒頭の挨拶で若干触れさせていただきましたけれども、防災・減災対策であります。この問題については、中長期的と申しますか、大きな財源を必要としますけれども、それぞれが取り組まなければいけない短期的な問題については財政支援をぜひお願いしたいと思っております。

5点目でございます。2020 年オリンピック・パラリンピックの競技大会の成功に向けての取り組みにつきましては、先ほど触れさせていただきました。さらに、追加種目のサーフィンについては新島村が、スポーツライミングについては三宅村が競技の開催地に決定するよう強い要望が上がっておりますので、ぜひ小池知事にお力添えをお願い申し上げまして、この競技が地域で開かれますようお願いをしたいと思います。それと同時に、先ほども触れましたけれども、できれば聖火が 13 の町村に回っていただくことによって、昭和 39 年にオリンピックを経験していない若い人たちが、後の自分たちのレガシーになると思っておりますので、これは実行していただくよう要望させていただいております。

6つ目は、超高速ブロードバンドの環境の早期の整備でございます。これは昨年から少しずつ進んでいますが、引き続き国に対して必要な財源措置を求めるとともに、東京都においても財政の支援をお願いするものでございます。

7つ目でございます。西多摩地域については非常に山林が多く、森林が二酸化炭素を吸収し、地球温暖化の防止などに寄与する。このことについては私から言うまでもなく、知事が環境大臣、あるいは本の中にも環境の問題について詳しく書いておられます。今この問題については、全国森林環境税、これは全国の市町村で何とか森林環境税をつくって山をきれいにしていこう、そのために特定財源を使わせてもらおうという運動を市長会、町村会、議長会の推進連盟で進めております。若干前に進んでおりますけれども、全国森林環境税の新たな仕組みの問題も含めて、ぜひこれの実施に対する要請にお力添えをいただくようお願い申し上げたいと思います。

以上でございます。重ねて申し上げますけれども、いずれにいたしましても、小さな町村の地域住民が安全で安心して住むために、それぞれの町村が工夫をしながらやっていくためにも、東京都の財政支援は命綱でございますので、きちっと平成 29 年度予算で確保



していただくようよろしくお願い申し上げます。

○中西委員（副知事）

それでは、会長からコメントがございましたら、お願いいたします。

○会長（小池知事）

ただいま、それぞれの地域のご事情に合わせ、またそれを反映したご要望を賜りました。

都の予算編成でございますけれども、これまで私が標榜しておりました3つのシティをつくるということ、まずセーフシティ、そしてダイバーシティ、さらにはスマートシティということで、安心・安全なまちづくり、みんなが参加できる地域づくり、そして新しい産業を含めて経済を引っ張っていくということで、これを3本の柱にし、それぞれをそれぞれの地域に合わせた形で皆様のご要望をしっかりと受けとめながら進めていきたいと考えているところでございます。

今、我が国の経済は、このところトランプ・ショックで上がったたり下がったりはしておりますけれども、そういった世界の環境の変化もございましょうけれども、やはり首都・東京が、いろんな多様性のあるこの東京を生かしていくことが、やはり日本経済の成長のエンジンになっていく、このように考えておりますので、そういった意味でこれからしっかりと経済を進めていく。ただ一方で、トランプさんのキャンペーン中の話を聞いておりますと、法人税の下げということを随分うたっております、さあこの点について都税の場合はどうなのかということ、法人税が基幹となっているわけでございまして、世界の競争の中でどのようにして税収を確保していくかということのも、これから若干不透明なところもあろうかと思えます。

いずれにせよ、他の自治体以上に自律的な財政運営が求められていると認識しております。そういう中で強固な財政基盤の構築に努めていくことはこれまで以上に必要だと思っておりますし、また、その中で多摩・島しょ地域の発展のために皆様方のご要望について今後十分検討してまいりたいと思っております。従来の延長線ではなくて、2020年の後までさらに見越したような予算編成にもしていきたいと思っておりますので、皆様方と、さらに将来の持続可能なそれぞれの地域づくりをともに進めていければと思っております。いろいろとご要望を承っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○中西委員（副知事）

次に、議案書の11ページにございます議案第2号「平成27年度都市町村協議会歳入歳出決算について」を議題といたします。

それでは、事務局長から説明をお願いいたします。

○事務局長（西村行政部長）

議案第2号「平成27年度都市町村協議会歳入歳出決算について」、ご説明申し上げます。

決算総額、内訳は13ページに記載のとおりでございます。

監査につきましては、武蔵野市長の邑上委員と財務局長に監査委員をお引き受けいただいております。14ページでございますとおり、両監査委員に監査を行っていただいております。

議案第2号の説明は以上でございます。

○中西委員（副知事）

ただいま事務局長から説明がありました件につきまして、何かご意見、ご発言がありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。——ないようでございますので、議案第2号につきましては、議案のとおりのお取り扱いとすることよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○中西委員（副知事）

それでは、そのように取り扱うこととさせていただきます。

なお、平成28年度決算の監査委員につきましては、従来からの慣行によりまして、市長会監事の石坂委員と東京都財務局長にお願いをいたしたいと存じます。よろしくお願いたします。

本日予定された議案は以上でございます。

〔意見交換〕

○中西委員（副知事）

次に、意見交換に移らせていただきたいと思います。

本日のテーマは、「今後の多摩・島しょ地域の振興について」でございます。

最初に、本件につきまして、総務局長の多羅尾委員から説明をしたいと思います。よろしくお願いたします。

○多羅尾委員（総務局長）

意見交換資料「今後の多摩・島しょ地域の振興について」をご覧ください。

まず、1 ページ、1 「これまでの主な実績」でございます。

多摩地域については、社会経済状況や都の長期的方針等を踏まえ、節目節目で計画を策定し、振興策を進めてまいりました。

島しょ地域については、「東京都離島振興計画」や「小笠原諸島振興開発計画」に基づき、振興策を進めております。

また、厳しい市町村財政の状況を踏まえ、「市町村総合交付金」により、市町村が実施する各種施策に要する一般財源の不足を補完しております。

以下、多摩・島しょ地域それぞれの主な実績を分野別に示しております。

まず、安全・安心でございますが、総合的な医療の充実や防災力の向上などを図ってまいりました。多摩では、多摩総合医療センター・小児総合医療センターの開設、島しょでは、御蔵島村、利島村ヘリポート整備の技術支援などがございます。

2 ページをご覧ください。都市基盤でございますが、主に道路・交通ネットワークの整備・充実や港湾、航路の整備などを図ってまいりました。多摩では、道路ネットワークの整備として、調布保谷線の全線開通、島しょでは、航路整備として、新おがさわら丸の導入などがございます。

次に、産業・観光でございますが、地域資源を活かした産業の活性化などを図ってまいりました。多摩では、産業サポートスクエア・TAMAの開設、島しょでは、八丈フルーツレモンや小笠原パッションフルーツ等の特産品開発などがございます。

3 ページをご覧ください。スポーツ・文化でございますが、東京2020大会を見据えたスポーツ・文化施策の推進、伝統文化の保護・育成などを図ってまいりました。多摩では、武蔵野の森総合スポーツ施設の整備推進、島しょでは、伊豆諸島ウォークの実施などがございます。

次に、自然・環境でございますが、豊かな自然環境の保全と活用などを図ってまいりました。多摩では、多摩川水源森林隊の協力による間伐・枝打ちの実施、島しょでは、八丈島における地熱等再生可能エネルギー利用拡大に向けた検討などがございます。

4 ページをご覧ください。2 「多摩・島しょを取り巻く状況」でございます。

西多摩地域や島しょ地域を中心に人口減少、少子高齢化が進んでおります。今後は持続可能なまちづくりという視点が必要になってくると考えております。

また、多摩地域では、区部ほど公共交通網が充実しておらず、交通不便な地域も存在しております。交通網などのインフラ整備とともに、地域の“足”の確保が大きな課題と認

識しております。さらに、近年、大規模工場の撤退が相次いでいるほか、大学も都心回帰傾向を示しており、産業振興や市街地の活性化などの地域活性化策も重要な課題となっております。

島しょ地域では、農業や漁業、観光といった基幹産業の振興のほか、生活環境における本土との格差も課題となっております。

一方で、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、地域活性化に向けた大きなチャンスとなります。また、近年の目覚ましい技術革新の動きは、将来的な生産性の向上や生活の質の向上に大きく寄与することが期待され、人々のライフスタイルや価値観の多様化の進展も予測されます。

続いて、3「今後の方向性」でございます。

こうした将来の社会情勢の変化も見据えながら、それぞれの地域特性や課題を踏まえた多摩・島しょの振興策を講じてまいります。

そうした中、多摩地域については、「2020年に向けた実行プラン」や、この後、説明があります「都市づくりのグランドデザイン」の検討とも整合を図りながら、長期の視点に立った新たな振興策を平成29年に策定する予定でございます。これから市町村の皆様方のご意見も伺ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、島しょ地域については、「東京都離島振興計画」、「小笠原諸島振興開発計画」に基づき、引き続き定住促進と持続的発展に向けた振興策を推進してまいります。

大変<sup>ざっばく</sup>雑駁ではございますが、私からの説明は以上でございます。

○中西委員（副知事）

続きまして、多摩・島しょ地域の振興に向けて、その基盤となります都市づくり分野の今後の方向性といたしまして、「都市づくりのグランドデザイン」について、東京都技監の邊見委員より説明させていただきます。

○邊見委員（東京都技監）

お手元の資料「都市づくりのグランドデザインについて（仮称）」でご説明をさせていただきます。

まず、「主な社会背景」と書きましたが、少子高齢・人口減少社会が確実にやってくる時代になります。一方で、都市間競争の激化、自然災害、あるいは技術革新等も進展していく時代になります。枠囲みで「2040年代を見据え」と書きました。先を見通すこと

はなかなか難しいわけでありますけれども、これまでよりも少し先の時代を見据えてということで、都市づくりは構想から実現まで長い時間を要することから、長期的視点をもって今なすべきことを考え、取り組みを始めることが、「より良い都市づくり」の実現につながると考えてございます。

この9月に東京都都市計画審議会から答申をいただきました。「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」と括弧内に書きましたが、そういったタイトルであります。

主立ったポイントといたしましては、都市の理念として、新たな価値を生み続ける場として「選択される」都市、あるいは個人から見れば、住まい方・働き方などを「選択できる」都市、そういった理念であります。

7つの目標としては、拠点づくり、自由な交流、災害リスクへの対応、あるいは四季折々の緑と水といったものを示してございます。

都市構造につきましては、より広域的に交流といったところに視点を置いてございます。一方で、個性ある多様な拠点、そういったところに身近な生活機能を集約していく。人口減少時代にあっても、そういった小さな拠点を各地域にそれぞれが競い合いながらつくっていくことが必要だろうと思います。

地域像として、イメージを右図に示してございます。4つの地域に区分、あるいは2つのゾーンを設定してございます。

恐れ入りますが、裏面をおめくりいただきたいと思います。「地域別の将来イメージ」として、主に多摩・島しょ地域の部分について抜粋をさせていただきました。1行目、「人・モノに」となっていますが、誤植でありまして、「人・モノの」とご訂正ください。人・モノの交流が活発化するなど、幾つかのイメージを示してございます。

次の枠囲みは「主な取組の方向性」ということで、以下、答申も踏まえながら、あるいはそれをベースに、具体的なものとか、主なものの考え方を幾つか提示させていただいております。

1つ目の丸です。渋滞対策として、これまで南北五路線に力を入れてまいりました。一部、立川東大和線など残っておりますが、おおむね目途が立つ時代になってまいりました。これからは交流というのでしょうか、利便性をもっと前面に出していいのではないかと考えております。下に路線図がありますけれども、例えば南多摩尾根幹線とか、あるいは中央線の北側を東西に結ぶ新五日市街道という大きな都市計画道路、まだ現道があまりあり

ません。主に計画路線になっておりますが、こういったものが将来の骨になると考えてございます。

それから、三環状道路もでき上がる時代を見据えますと、これまでの道路空間のストックを「再編」と書きましたが、リメイクできる時代になるだろうと。例えば少し歩道を広げるとか、緑をふやすとか、自転車をさらに使いやすくするとか、魅力を増したインフラにもう少しできるのではないかと思います。

それから、公共交通という意味では、東京は鉄道が充実しております。すみません、一部、鉄軌道のない市、町、村もございますが、多摩では主に東西方向に多く鉄道路線がございます。これを生かしまして、フィーダー交通というのでしょうか、枝葉となる交通の充実を図っていく方向であります。左下に写真がありますが、連立事業に合わせて拠点的形成され、駅広がりができ、都市計画道路と接続していくという意味で、枝葉の交通もこれで充実していくということを進めていきたい。あるいは、ちょっと小さな写真で恐縮ですが、自動運転バス、こういった公共交通とプライベート交通の中間的なものも、次の時代には広まっていくものと考えます。

2つ目の丸です。先ほど並木会長からもありましたが、多摩には高い技術力を持つ企業、大学、近年は特に企業の研究拠点の立地も進んでいる状況であります。圏央道などで広域的なつながりを擁するという強みもございます。リニア中央新幹線も含めて、産業の活性化、イノベーションを交通のネットワークの充実などにより応援していく、そういったことを出していきたいと考えてございます。

3つ目の丸です。右側にポンチ絵がありますが、先ほど述べましたように、人口減少時代にありましても、山で表示した中小規模の拠点をつくっていく、それを道路・交通網で結ぶ、こういったものが大事だろうと思います。主要駅周辺へさまざまな都市機能、さらには子育て、高齢者支援といったものを集約していく。その際には、都営住宅、あるいは多摩ニュータウンなど、公的な不動産の建てかえに当たっても、そういったことに寄与していきたいと考えてございます。

次のページでございます。4つ目の丸です。多摩地域でも1970年代というのでしょうか、40年程度前がかなり建物ができた時代、ピークと言われております。そういった中には木造も多ければ、時代とともにそれが老朽化し、いわば木密的な広がりにもなっていくということもあります。この対策に先行して取り組みを始める必要もございます。今年度からは、こういった地域での地区計画の策定に対する補助も始めさせていただいておりま

すが、今後の大きな課題だろうと思います。

それから、化石燃料に頼らない社会に少しずつシフトしていくことはもちろんであります。ここに書きましたように、「エネルギーのネットワーク化による」ということで、その右下に小さくて恐縮であります。東京電力などの系統電源のみならず、自立分散電源というのでしょうか、これは法制度的にも、あるいは技術革新上も少しやりやすい時代になってきてございます。これをネットワークで結んで効率を上げることは、災害時のリダンダンシーという意味でも大事な部分だろうと思います。あるいは、エネルギーという意味では、先ほど河村会長からも森林の話をいただきました。そういったこともあろうかと思えます。

5つ目の丸です。「都市農地」と書きましたが、これも今後の大事なキーになろうと思えます。都市の貴重な資源として、あるいは生産の場としても生かしていく。右に写真を載せましたが、都が独自に取り組んでいる「農の風景育成地区」があります。都市計画公園を若干弾力化する運用によってこういったことを育成する。あるいは、生産緑地などもありますので、これを活用しながら、こういったことを前面に出していきたいと思えます。

島しょ部でも、豊かな自然、あるいは特産物ということで右側に島焼酎も表示させていただきましたが、こういったことを発信していく。あるいは、アクセス手段、それからご要望項目にもありました情報通信手段の充実を進めていくということを表示させていただいてございます。

以上、主立ったものを例示させていただきました。

最後に、一番下の枠囲みです。今後、答申を踏まえまして、来年度、「都市づくりのランドデザイン」を行政計画として策定していきたいと考えてございます。その際にはパブリックコメントなど市区町村の皆様とも広く意見交換をさせていただきたいと考えてございます。当然、実行プランや多摩・島しょ地域の振興策検討とも連携を図っていきたいと考えてございます。

私からの説明は以上であります。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○中西委員（副知事） それでは、まず初めに、市長会を代表して、市長会会長の並木委員からご発言いただければと思います。よろしくお願いをいたします。

○並木委員（市長会会長・羽村市長）

多摩のこういうテーマでご説明いただきまして、ありがとうございました。

最初に知事からも多摩格差と。これについては、抽象的な言葉で、具体的にこれをどう

していくかということは永遠の課題でございます。そういう意味では、23区と我々を比較して、それを格差という形ではなくて、今の説明のように、2040年を目指して、東京都が1つとして、特色を生かしながら横串としてトータルとしての都市構造、その中で多摩の問題を成長させて一緒にやっていく。島の人も、我々市も、そして区民も、全部が都民であるという形でのグランドデザインにさせていただく。そういう中でそれぞれ特色を生かしていく。もうご承知のことだと思いますけれども、知事にはこういう方向性だけはぜひ進めていただきたい。そして、この中に具体的に出ております事項につきましては、優先的にすること、そして全体としてのご協力をいただければと思っているところでございます。

先ほど説明のあった東京都の都市計画審議会の中には、私も参加させていただいておりました。将来的な展望としてはとても大切なことが含まれていると承知しております。我々、できることは最善を尽くしてまいりたいと思っております。抽象的ではありますが、回答にさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○中西委員（副知事）

次に、町村会を代表して、町村会会長の河村委員からご発言いただければと思います。

○河村委員（町村会会長・奥多摩町長）

先ほどの平成29年度予算の中で1つ知事に御礼を言わなければいけないのですが、国におきましての国家戦略特区、青ヶ島村の焼酎と、それから御蔵島村と檜原村で新たに焼酎をつくりたい。これは数の問題でぶつかってしまっていて、戦略特区の中で知事にこのことをご発言していただいております。そういう意味で、片方ではいろいろなところに働きかけをして、平成29年度の税制改正のテーブルにのせていただくというところまでやっと到達をしそうでございますので、最後の一押しをもう一回知事にお願いしたいと思っております。

それから、それぞれの施策でございますけれども、これもいろいろな話の中でさせていただきましたが、「市町村総合交付金」が13町村の中では非常に使い勝手がよくて、かつ特徴的な政策を打てるという意味では、この財源確保がないと。町村の場合、非常に大きな意味で画一的なものできません。それもスケールが大きい問題ではなくて、小さいものから大きいものまで含めてということになりますので、そういう点では、ぜひ「市町村総合交付金」は重ねて財源確保をしていただきたいと同時に、町村財政の支援を積極的にしていただきたいと思っております。

特に子育てという意味では、私どもの町を見ますと、空き家の特措法ができましたけれ



ども、特措法でやる観点ではなくて、空き家をどう活用しようかという観点で調査をいたしました。444戸の空き家がありましたので、何とかUターン、Iターンをしてもらったらどうかということも含めてやりましたら、空き家と土地を無償で提供していただける方が今4軒できました。2軒については既に、15年間無償で貸す、15年たったらあなたに譲渡しますよ、ただ、税金分だけは15年間払ってくださいよということで決まりました。今、2軒を募集したところ、十何世帯の方が応募しております。それは年齢制限、それから子どもが大勢いる人に優先的に来てもらおうという選択をしたいと思っております。

私どもは、町の中に入ってくる若者の定住対策室を立ち上げました。これから持続的にこの町が先輩たちを含めて安全・安心でいくという意味では、地域のコミュニティにかかわってもらおう、あるいは消防団員になってもらおう、そういうことも含めてこれを行っています。これは恐らく私の町だけではなくて、13町村、小さな町村の悩みが凝縮していると思っておりますので、そういうところに対して、アイデアも含めた東京都の皆さん方のご支援をお願いしたいと思っております。

それから、先の問題でございますけれども、これはもう何年も前から言い続けているのですが、首都東京の中で大型バスのすれ違いができないトンネルがうちの町に14あります。山梨県との県境で東京都さんが水源地をつくってダムをつくりました。昭和32年にダムをつくる時の道路だったんですね。それを国道411号に格上げしました。そのときの規模としては、大きいトンネルがあるなと思っていたのですが、今になってはそのような状態ですから、これは長期的に、首都東京の中に観光バスのすれ違いができないトンネルがそれだけあるということを確認いただきながら、大きなランドデザインの中で、東京都として、今、建設局に取り組みをお願いしておりますので、このスピードを少し速めていただくとありがたいと思っております。

以上でございます。

○中西委員（副知事）

それでは、ほかの委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。ご発言があればよろしく願いいたします。

○渡部委員（東村山市長）

東村山市長の渡部でございます。今日はありがとうございます。

今日は知事をお願いで伺ったわけですが、当市には東京都内唯一のハンセン病の療養所、多磨全生園が所在しておりまして、約35万平米の広さのところ、3万本の樹木が植えら

れています。もともと植えられていたものではなくて、子どもを持つことを許されなかった入所者の方々が長い期間をかけて我が子のように育てて、今、立派な森になっております。これを入所者の皆さんは将来に向けて「人権の森」として残していこうという運動をさせていただきます。

このことは最終的には国を動かさないと実現できないわけですが、人口 15 万人ぐらいの当市と国が直接やりとりしてもなかなか前に進まないというのが現実でございます、ぜひ都知事にも一度ご視察いただいて、先頭に立って「人権の森構想」の推進の旗振りをさせていただけるとありがたい。そのことがひいては多摩振興、あるいは 2020 年の東京オリンピックの、先ほど知事からもお話がありましたダイバーシティ、人権、環境の大切さということの世界に向けて発信するいい機会にもなるのではないかと。私はダークツーリズムという言葉が余り好きではないのですけれども、そのことが逆に多くの方に全生園を初めとして多摩地域に訪れていただくきっかけにもなるのではないかと。このように考えているところでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○清原委員（三鷹市長）

三鷹市長の清原です。

先ほど冒頭、都知事のほうから、「2020 年以降も見据えた持続可能な東京都の取り組みを」と言っていました。そして、本日、まさに都庁内の各局を挙げて「2020 年に向けた実行プラン」を進めていらっしゃるのとあわせて、都市計画審議会の答申を受けて、2040 年という年代を見据えた成熟社会にふさわしい取り組みについても、「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」ということでご説明いただきました。短期的にできること、長期的なビジョンが必要なことを、知事がきちんと重ね合わせながら進めていらっしゃることを心強く思います。

そこで、本日、キーワードを「都市づくりのグランドデザイン」からいただきました。まずは 1 ページに、目指すべき都市構造として、「広域的な交流」、「個性ある多様な拠点」、そして「身近な生活機能の集約」とあります。今回、都知事は、補正予算で少子化対策、子ども子育て支援に重点を置かれましたが、お気持ちの中には、少子高齢化全体を踏まえた「地域包括的なケア」、つまり、「どの世代も安全に、安心して健康、医療、福祉を連携したような枠組み」をお考えであって、まず待機児解消というところから始められたのではないかと思います。今回、「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」が、都市計画審議会という、どちらかというとハード系の審議会から提案されましたが、中身には極めて福

社の視点、生活の視点が入っていると思います。ぜひこの方向で進めていただければと思います。

最後に、今回、「都市づくりのグランドデザイン」については、「パブリックコメントだけではなくて、市区町村とも広く意見交換する」とあります。東京都市長会は原則として年8回、市長会議を持っております。お時間がないことはわかっているのですが、市長会の席で20分でも30分でも都知事と直接、さらにお話しできるような機会ができると、「都市づくりのグランドデザイン」及び「2020年に向けた実行プラン」について、私たち市長の思いと都知事の思いが一致できるのではないかなと思いますので、ご検討いただければと思います。

どうもありがとうございます。

○長友委員（調布市長）

調布市長の長友でございます。手短かに1点だけ。

武蔵野の森総合スポーツ施設がいよいよ来年、竣工でございます。2013年の9月にオリンピック・パラリンピックが東京に来ることが決まる以前から、あれをつくろうということが確定していたわけで、そこにこういうような状況になったのは大変運がいいと思っております。バリアフリー、自転車レーン、Wi-Fi環境の整備はもとよりでありますけれども、そういうものをうまく組み合わせながら、多摩全体の振興に資するような運営を今後ともぜひお願いできればということでございます。

それから、オリンピック・パラリンピックが2020年7月・8月なのですが、あそこにもポスターの貼ってあるワールドカップ・ラグビーはもうあと2年10カ月なんですね。2019年9月20日ということでございますから、その開会式、開幕戦の会場になるということ。

加えて、オリンピックを越えてでございますけれども、東京のターミナル駅から最後に残された数十ヘクタールのさまざまな用途の可能な垂涎<sup>すいぜん</sup>の地であります。文化、スポーツ、エンターテインメント、これから東京都が総合的にどうあそこ全体を使われるのかは、多摩のみならず東京都にとって非常に大きいことになろうかと思っております。期待と、我々もぜひいろいろな意見交換をさせていただければと思っているところです。

○藤野委員（武蔵村山市長）

武蔵村山市の藤野と申します。

先ほど邊見技監からのお話もありましたが、東京都は鉄道が充実している。ただ、唯一

鉄道が走っていない市がこの武蔵村山市でございます。ただいま東大和市の上北台一箱根ヶ崎間 6.7 キロ、導入空間となる新青梅街道も用地買収が進んでおりますので、一日も早いモノレールの早期延伸をぜひ実現していただくよう要望させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○阿部委員（多摩市長）

今日はほんとに貴重な時間をいただき、ありがとうございます。多摩市長の阿部裕行です。

私のほうからは、今回、小池都知事が補正予算で力を入れておられる待機児童対策で、三多摩地域として、もう少し使い勝手のよいものにしていただきたいと思います。と申しますのは、ご存じのとおり、厚労省のいわゆる加速化プランを前提にしているということからしますと、23 区は全体がその対象となるわけですが、先ほど知事がおっしゃられた多摩格差について一言申し上げると、私どもの自治体であれば、財政力指数が 1.0 以上の自治体は除外される。なおかつ、待機児童数が 10 人以上とか、保育拡大量が 90 人以上の場合とか、制限が加えられているのです。ですから、せっかく今回、都知事につくっていただいたプランが多摩市においては適用がされないということでもありますので、このあたりについては、平等に扱っていただきたいと思いますということで、ぜひよろしくお願いしたいと思います。その点をちょっと申し上げさせていただきますと思います。

○中西委員（副知事）

それでは、時間に限りがありますので、最後に立川市長さん、お願いいたします。

○清水委員（立川市長）

立川市長の清水でございます。

今、武蔵村山市長からモノレールのことについてお話がございましたけれども、都市の発展や充実にとって交通インフラの整備は欠かせないものであります。ただいま示していただきました「都市づくりのグランドデザイン」にも書いてございますけれども、交流を深めることが決定的に都市の繁栄につながっていくものと思っております。実は中央線についてでございますけれども、中央線は今、東京駅から三鷹駅まで複々線になっております。本来ですと、立川まで複々線で延伸をする。もう既に複々線のための都市計画決定がされて長いこと時間がたっているわけではありますが、これがなかなか工事の端緒も見えてこないということでございます。東西の交通の大動脈である中央線の複々線化につきまして、ぜひ東京都のお力添えをいただきたいと思います。

もう1つ、防災上の観点からも道路網の整備は欠かせないものであります。多摩地域は特に都市計画道路が南北の方向もかなりおくれております。今回、グランドデザインの中でお示しいただきましたが、2ページに、赤色を塗ってある優先整備路線が初めて出てまいりまして、何本かございます。これだけあるんですね、赤でお示しをいただいたところが。ぜひ計画的に都市計画道路の築造に関してスタートしていただければありがたいと思うところでございます。防災上も非常に重要な路線だと思っておりますし、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○中西委員（副知事）

島の首長さんのご発言がございませんので、もしよろしければ、広瀬村長さん、お願ひします。

○広瀬委員（御蔵島村長）

知事に明日私どものほうにいらしていただくということで、私、大変喜んでおります。今度は島のほうからお迎ひしたいと思ひます。ただ、島しょというのは、今日も我々の仲間で天候不良によって参加できない方もおりまして、小笠原から大島までの1000キロを結ぶ交通アクセスは、島しょの人たちにとってみれば大変負担が重い。それから、ヘリコミューターを使って来る中で、特に港湾整備とか、今のヘリポート整備は我々にしてみれば悲願であつて、小笠原村を含めて、今後の島の航路、交通アクセスをぜひご理解いただき、ご協力をお願ひしたいと思ひます。我々はエコツーリズムを率先して平成14年から東京都の中で一番最初にやっている島ですから、明日、ぜひ見ていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

ありがとうございます。

○中西委員（副知事）

各委員から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。

最後に、会長からもご発言があればお願ひを申し上げます。

○会長（小池知事）

ありがとうございます。それぞれの地域のご要望を具体的に伺わせていただきました。それぞれの特徴といたしましうか、長年の悲願であつたり、さらには将来を見据えた新しいご要請であつたり、大変参考になったところでございます。そのためにも、それぞれの地域に私自身が足を運ばせていただいて、実際に見聞きをするというのが一番近道ではないかと思ひます。当然、予算の時期がございますので、今日伺ったことについてはそれぞ

れ各局でもませていただいて、この時期、できるだけしっかりと受けとめていきたいと思っております。それぞれの部局でうまくいかないときはどうぞ知事室のほうに直接ご連絡をいただければと、このように思っております。

共通するのは、防災であったり、経済であったり、そしてまた交通の観点ということで、中身は違えどもテーマとすればもちろん共通しているわけでございます。先ほど「都市づくりのグランドデザイン」ということで、これは都市計画審議会が2040年と。それから、実行プランをパブリックコメントにかけるということで今日記者会見したところでございますが、これは2020年です。オリンピック・パラリンピックでございますけれども、三鷹市長がおっしゃるように、目の前の問題と、それから中長期でやっていくことと、それぞれ段階を踏みつつも、逆に言えば、私は、環境の観点からもバックキャスティング、こうあったらいいなというところから逆算して、今、何ができるか、何をしなければいけないかという手法、今、何をするのかと、それから遠い未来から逆算して何をしなければいけないか、その両方から考えていかなければならない時代だと思っております。とはいえ、予算には限りがあるわけございまして、優先権をしっかりと定めながら務めてまいりたい、このように思っております。

この後は懇親会で、それこそ青ヶ島の――村長、聞いていますか。今日は初垂れ（はなたれ）はお持ちいただいているんですか。（菊池青ヶ島村長「持ってこなかったです」と返す）それぞれの宝物をぜひ、ともに磨いていきたいと思っております。

ということで、フラッグツアーのほうはそれぞれ回らせていただきます。またそれぞれの地域の特色を生かしたフラッグツアーを皆様方のほうでもお考えいただいて、私、オリンピック・パラリンピックのメダリストの皆さん、アスリートの皆さんと伺わせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。その際は「知事、ぜひここを見てください」というところをご用意いただければと、このように思っております。ほんとに現場の声をお届けいただきまして、今日もありがとうございます。

「都民ファースト」と私、ずっと申し上げております。「都民」はオール都民でございますので、ともにすばらしいオール東京をつくっていきたいと思っております。今日は直接のご意見、ありがとうございました。

○中西委員（副知事）

委員の皆様から大変貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

[閉 会]

○中西委員（副知事）

本日予定された案件は以上でございます。協議会につきましてはこれで閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

（了）